

ミュージアム・ボランティア等に関する 調査研究報告書

2012 年 6 月

京都橘大学 木下達文研究室

はじめに

1995年の阪神淡路大震災以降、自治組織によるボランティア活動が改めて着目され、国内ではこれまでに数多くのボランティア組織ならびにNPO組織が誕生した。当初は災害・福祉型ボランティアの活動が目立っていたが、近年ではボランティア活動の幅が拡大し、生きる目標を見いだしかつ地域の魅力を高めていく意味での「文化ボランティア」という用語が誕生した。平成13年には文化芸術振興基本法が成立し、平成14年から文化庁を中心として文化ボランティアを積極的に推進する動きも見られ、文化が経済を動かす原動力として注目を集めている。しかしながら、日本国内における文化ボランティアの実態は十分に把握されておらず、また組織によっては活動の経験も浅いためと、多くの課題を有している。そこで京都橘女子大学（当時）木下達文研究室が主体となり、文部科学省科学研究費の助成を受け、ミュージアム（博物館）・ボランティアに焦点を絞り、まずはその実態を明らかにするための調査を中心として実施し、その結果を本書にまとめた。なお、調査は平成15年度から開始したが、とくに2次調査の個別データ総数が434件となり、その整理・確認作業に時間を要したため、本報告書の完成がかなり遅くなったことをまずお詫びするとともに、ご協力いただいた関係者の方々にはこの場をお借りして深く感謝申し上げる次第である。本報告書が、今後のミュージアムや地域活動等に少しでも生かされることを期待するとともに、昨年の東日本大震災を乗り越えつつ、文化領域における「新しい公共」を考える基礎資料になっていくことを願うところである。

木下達文

目 次

1. 調査概要	4
2. 1次調査の結果について	5
3. 2次調査の結果について	11
4. 各館別基礎データ	19

1. 調査概要

■調査の目的

国内のミュージアム施設におけるボランティア等スタッフ以外の人々が施設を中心に活動する実態を把握する。とくに人的な動向についてその国内全体の概要をまとめる。本調査を通じて、基礎資料を収集するとともに、今後のミュージアム・ボランティア（文化ボランティア・博物館ボランティア）のあり方について検討する素材とする。

■調査の対象

全国のミュージアム（博物館施設）。具体的には出版社ぎょうせいが発行する『全国博物館総覧』（平成15年版）に掲載されている全ての施設。合計で3892館である。なお、『博物館総覧』に掲載されていない施設でも、過去の文献において活動事例が記載されている施設については2調査の段階で情報の追加を行った。

■調査の方法

調査は1次調査と2次調査の2段階で実施した。

①1次調査は往復ハガキによりボランティア等活動の有無を把握した。

②2次調査では、1次調査で活動を実施しているか、あるいは次年度に実施を予定しているとする施設、および過去の文献などから活動実績の認められる施設に対して、アンケートによる調査を行った。

■その他

本報告書では「ミュージアム」の用語を使用しているが、専門的には博物館のことである。しかし、一般に「博物館」は「美術館」や「水族館」などと分けられることがあるため（法的には全て同じ博物館に含まれるがその認知は低い）、全体を包括する用語としてあえてカタカナ語のミュージアムを用いている。

2. 1次調査の結果について

<調査概要>

- ・調査年月：平成16年3月～7月
- ・調査対象：平成15年度版『全国博物館総覧』（出版社：ぎょうせい）掲載施設
総数 3892 施設
- ・調査方法：往復ハガキによるアンケート形式にて実施。

<アンケート結果>

- ※各施設側からの返送枚数 2506（施設）有効回答率 64%
- ※あて先不明のため郵便局側からの返送枚数 34（施設）

【ボランティア等に関する活動について】

- ・実施している 757（施設）
- ・実施していない 1736（施設）
 - 理由：①16年度に実施を予定している 51（施設）
 - ②将来実施に向けて検討中である 232（施設）
 - ③かつて実施をしていたことがある 67（施設）
 - ④今のところ実施の予定はない 1248（施設）
 - ⑤その他（休館・諸事情など） 78（施設）
- ※実施していないが詳細（①～⑤）の項目未記入 94（施設）
- ※①～⑤は複数回答項目
- ・閉館 11（施設）
- ・無回答 2（施設）

<参考>

財団法人日本博物館協会編

『博物館ボランティア活性化のための調査研究報告書』、1993年

- ・ボランティア導入館 : 139 館
- ・ボランティア非導入館 : 52 館
- ・無回答館 : 74 館

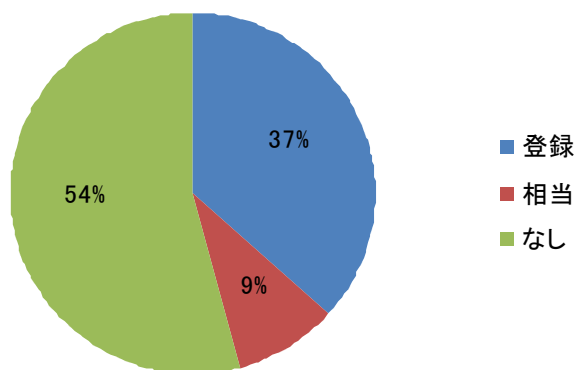
<1次調査の概要（まとめ）>

第1次調査として、2004年3月に全国3892施設のミュージアム（博物館施設）にアンケートを送付し、ボランティア等の活動実施の有無を確認したところ、2506館からの回答を得た（注：一覧表を参照のこと）。その結果、実際に何らかのボランティア活動を実施しているところが757施設（全体の19%）にのぼった。これは、1993年に日本博物館協会が調査した結果（139施設）と比較すると、この10年間で5倍以上の施設で活動が始まっていることがわかる。そして、平成16年度実施予定館（51施設）と、将来実施に向けて検討中のところ（232施設）もあわせると1040施設（全体の27%）となる。つまり、全国のミュージアムの約4館に1館の割合でなんらかのボランティア的活動を実施あるいは検討しているという実態を捉えることが明らかになった。2次調査では、実施館757施設に加え、平成16年度実施予定館51施設、計808施設に対してアンケートを送付し、活動の実態についてさらに調べていくこととする。

以下には、1次調査からわかる、属性（登録の状況、館種、設置者）の割合について、①「ボランティア等活動実施館」、②「平成16年度実施予定館」、③「①と②を合わせた施設（2次調査対象館）」の調査結果について、データとグラフで示すこととする。なお、コメントは③に対してのデータについて行っている。

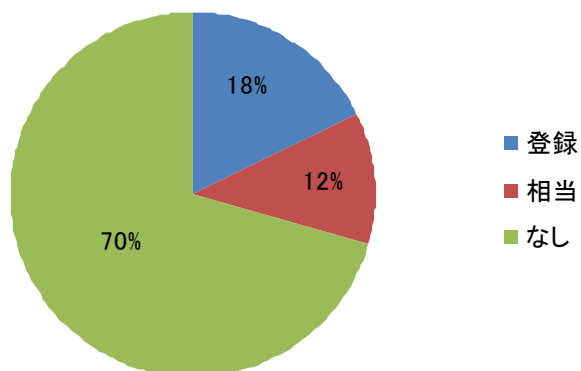
< 登録・相当の割合 >

登録・相当の割合(757館)



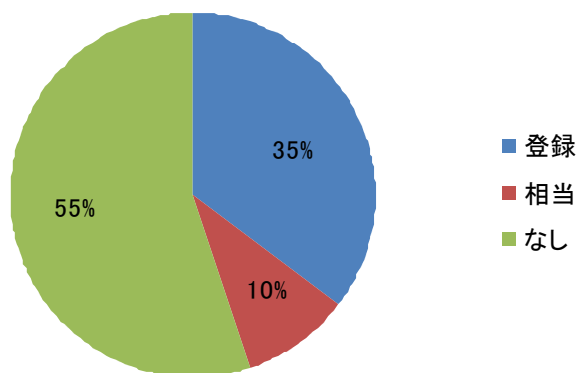
登録	277	36.6%
相当	71	9.4%
なし	409	54.0%
合計	757	100.0%

登録・相当の割合(51館)



登録	9	17.6%
相当	6	11.8%
なし	36	70.6%
合計	51	100.0%

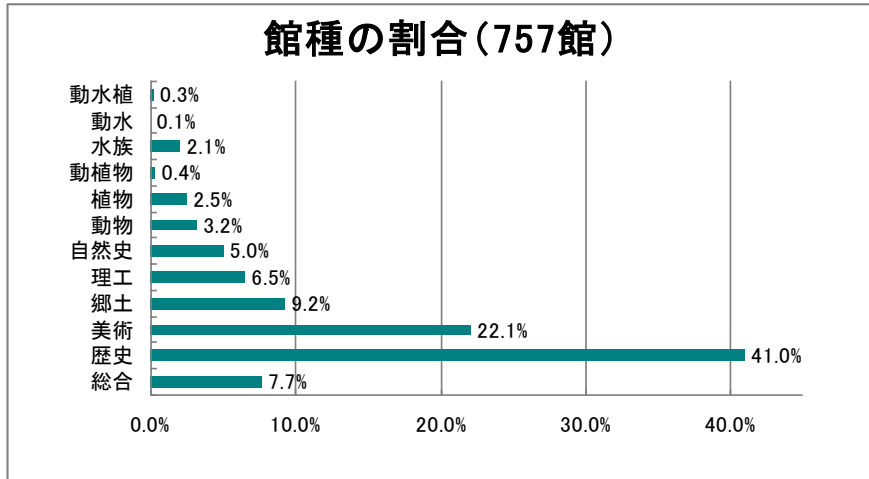
登録・相当の割合(808館)



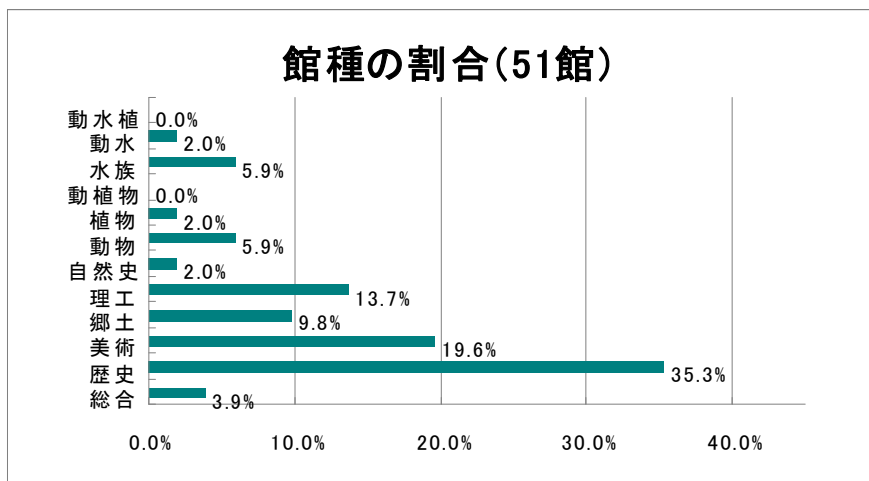
登録	286	35.4%
相当	77	9.5%
なし	445	55.1%
合計	808	100.0%

実施館における登録・相当の割合は全体の5割弱となっている。

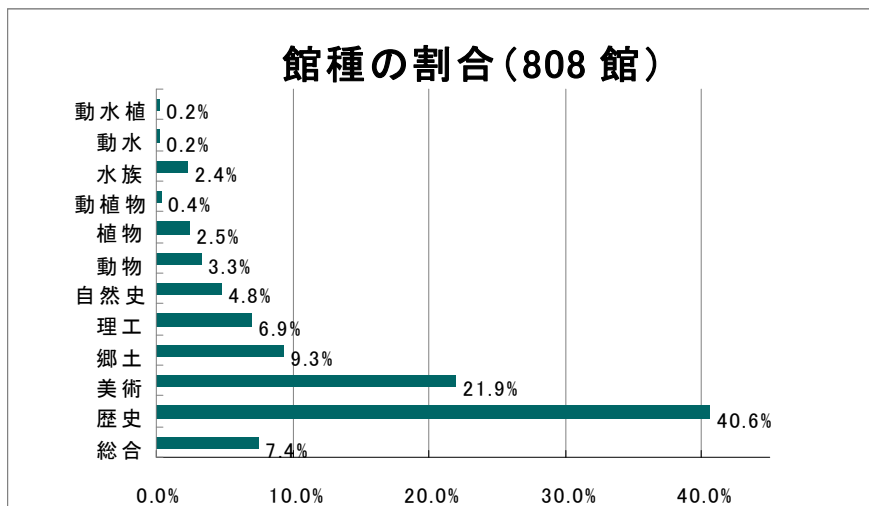
<分野別の割合>



総合	58	7.7%
歴史	310	41.0%
美術	167	22.1%
郷土	70	9.2%
理工	49	6.5%
自然史	38	5.0%
動物	24	3.2%
植物	19	2.5%
動植物	3	0.4%
水族	16	2.1%
動水	1	0.1%
動水植	2	0.3%
合計	757	100.0%



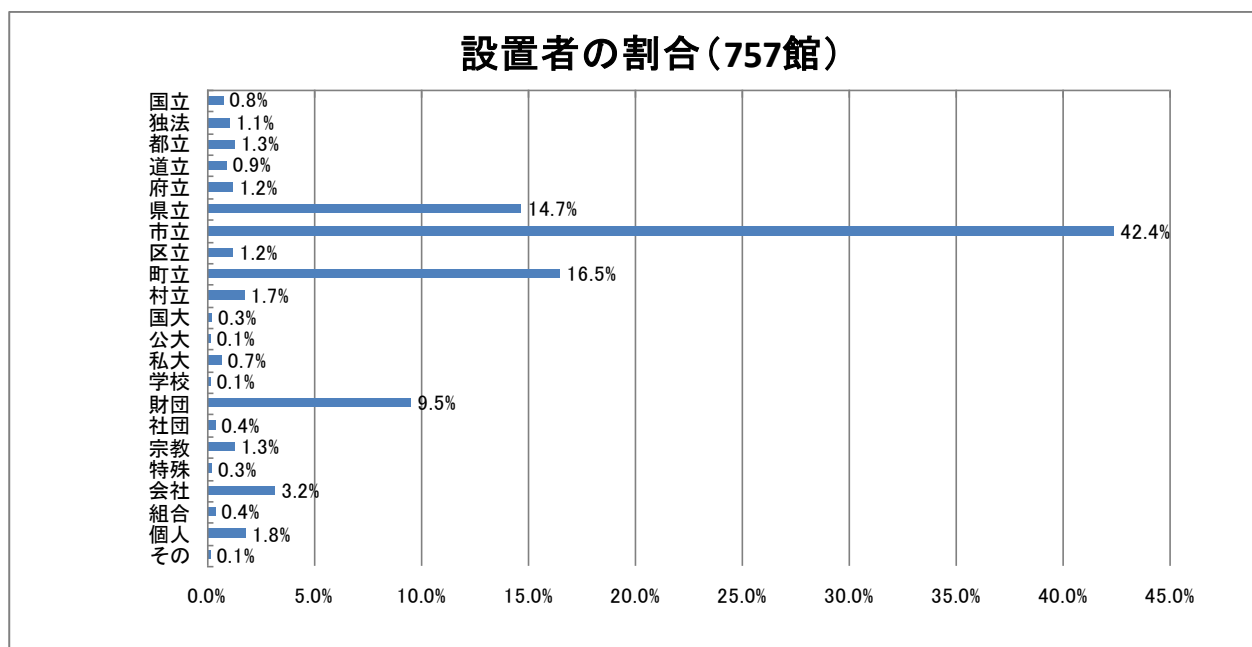
総合	2	3.9%
歴史	18	35.3%
美術	10	19.6%
郷土	5	9.8%
理工	7	13.7%
自然史	1	2.0%
動物	3	5.9%
植物	1	2.0%
動植物	0	0.0%
水族	3	5.9%
動水	1	2.0%
動水植	0	0.0%
合計	51	100.0%



総合	60	7.4%
歴史	328	40.6%
美術	177	21.9%
郷土	75	9.3%
理工	56	6.9%
自然史	39	4.8%
動物	27	3.3%
植物	20	2.5%
動植物	3	0.4%
水族	19	2.4%
動水	2	0.2%
動水植	2	0.2%
合計	808	100.0%

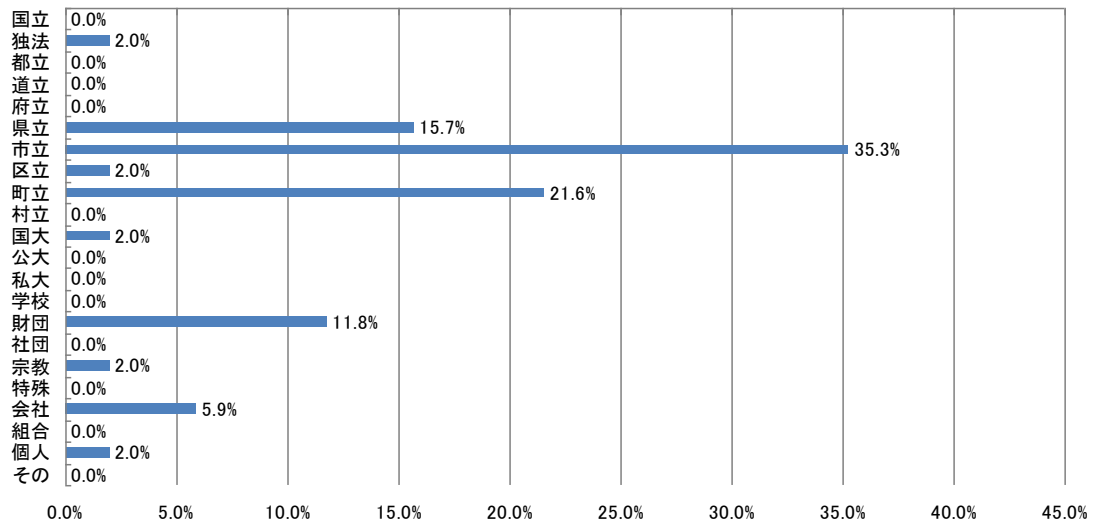
分野別の割合については、歴史が全体の4割を占め、美術が2割となっている。次いで、郷土、総合、理工、自然史の順になっている。歴史と美術を合わせて全体の6割強となっている。

<設置者の割合>



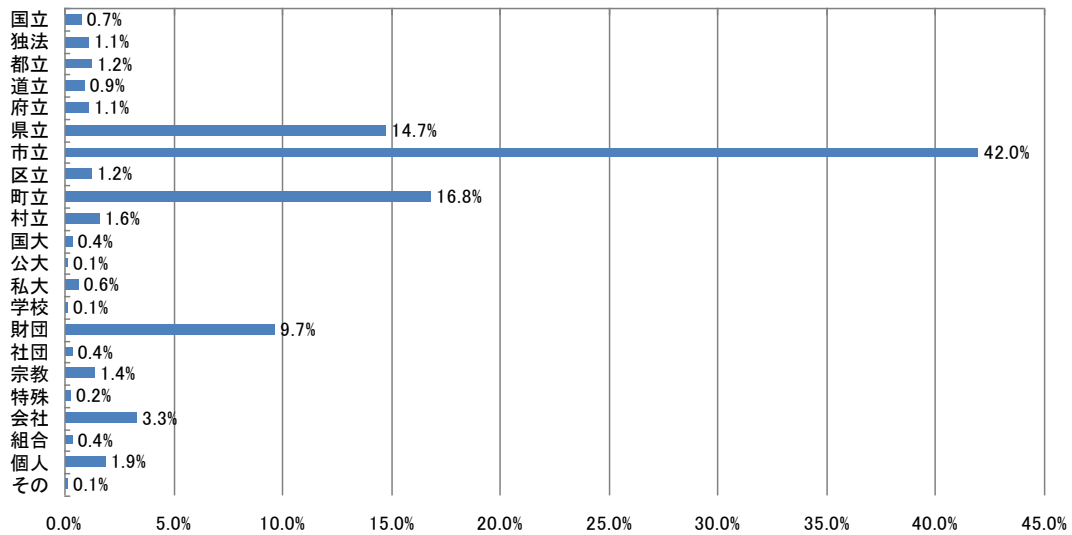
国立	6	0.8%
独法	8	1.1%
都立	10	1.3%
道立	7	0.9%
府立	9	1.2%
県立	111	14.7%
市立	321	42.4%
区立	9	1.2%
町立	125	16.5%
村立	13	1.7%
国大	2	0.3%
公大	1	0.1%
私大	5	0.7%
学校	1	0.1%
財団	72	9.5%
社団	3	0.4%
宗教	10	1.3%
特殊	2	0.3%
会社	24	3.2%
組合	3	0.4%
個人	14	1.8%
その他(県立・市立)	1	0.1%
合計	757	100.0%

設置者の割合(51館)



国立	0	0.0%
独法	1	2.0%
都立	0	0.0%
道立	0	0.0%
府立	0	0.0%
県立	8	15.7%
市立	18	35.3%
区立	1	2.0%
町立	11	21.6%
村立	0	0.0%
国大	1	2.0%
公大	0	0.0%
私大	0	0.0%
学校	0	0.0%
財団	6	11.8%
社団	0	0.0%
宗教	1	2.0%
特殊	0	0.0%
会社	3	5.9%
組合	0	0.0%
個人	1	2.0%
その他(県立・市立)	0	0.0%
合計	51	100.0%

設置者の割合(808館)



国立	6	0.7%
独法	9	1.1%
都立	10	1.2%
道立	7	0.9%
府立	9	1.1%
県立	119	14.7%
市立	339	42.0%
区立	10	1.2%
町立	136	16.8%
村立	13	1.6%
国大	3	0.4%
公大	1	0.1%
私大	5	0.6%
学校	1	0.1%
財団	78	9.7%
社団	3	0.4%
宗教	11	1.4%
特殊	2	0.2%
会社	27	3.3%
組合	3	0.4%
個人	15	1.9%
その他(県立・市立)	1	0.1%
合計	808	100.0%

設置者で見ると、市立が全体の4割を占め、次いで町立、県立、財団の順になっている。市立や町立など、比較的地域が限定される自治体において実施の割合が高いことがわかる。県立もエリアは広いが実施の割合が高く、逆に区立と村立の割合が低い。財団が全体の約1割を占めている。

3. 2次調査の結果について

<調査概要>

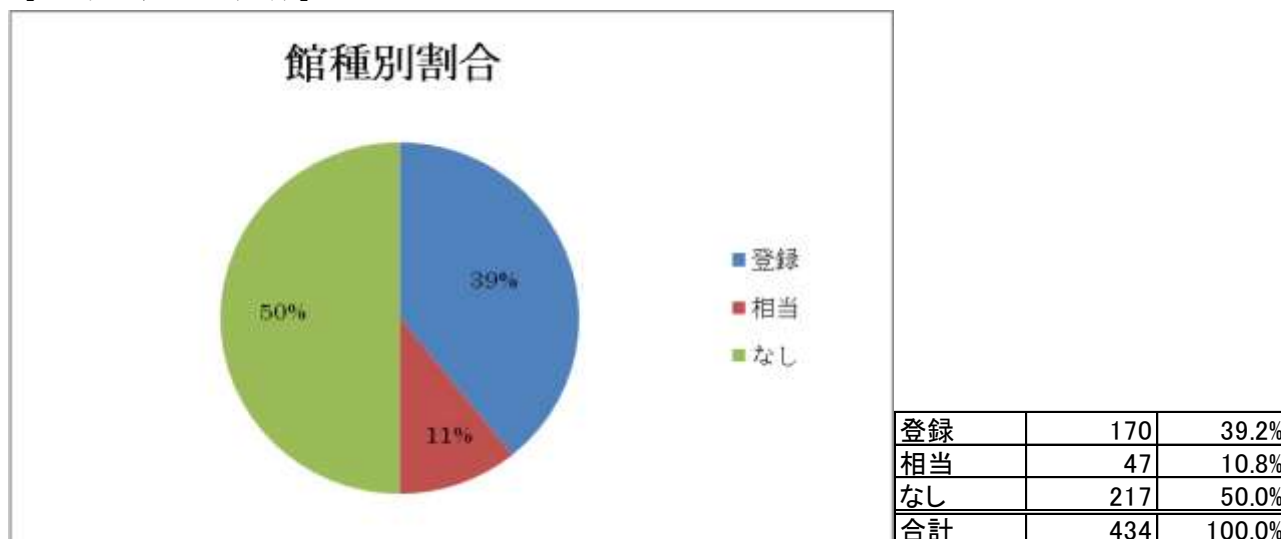
- ・調査年月：平成16年12月～平成18年3月
- ・調査対象：
 - ① 1次調査結果による施設（808）
「活動実施施設（757）」および、「平成16年度実施予定施設（51）」
 - ② 文献掲載が認められる施設（71）
 - ①+② 計879施設
- ・調査方法：上記の対象に対してアンケート用紙を封書（返信用封筒を同封）にて送付し、その後回収しとりまとめる方法にて実施。アンケート用紙は全て共通のものを使用したが、個別活動については、施設の活動内容に応じてコピーして使ってもらう方法をとっている。また、過去の文献などから分かる情報については極力アンケート用紙に事前に記入しておき、修正箇所のみ訂正する方法をとっている。なお、アンケートの様式については、次章「4. 各館別基礎データ」を参照のこと。
- ・その他：
 - 参考にした文献は以下の通りである。
 - 財団法人日本博物館協会編『博物館ボランティア活性化のための調査研究報告書』、1993
 - 第2回全国博物館ボランティア研究協議会編『博物館におけるボランティア活動の概要』、国立科学博物館、1997
 - 第3回全国博物館ボランティア研究協議会編『参加館におけるボランティア活動及びボランティア活動検討の概要』、国立科学博物館、1999
 - 淡交社美術企画部編『私も美術館でボランティア』、淡交社、1999
 - 文化庁長官官房政策課編「地方公共団体における文化ボランティア活動の環境整備に向けた取組」『文化ボランティア通信』第7号、文化庁、2003
 - 財団法人日本博物館協会編『全国博物館総覧』、ぎょうせい、平成16年度版
 - 第5回全国博物館ボランティア研究協議会編『参加館におけるボランティア活動及びボランティア活動検討の概要』、国立科学博物館、2004
 - 文化庁長官官房政策課編『文化ボランティア実践事例集』文化庁、2004
 - 大久保邦子監『文化ボランティアガイド』日本標準、2004

<アンケートの回収>

各施設側からの返送枚数 434（施設） 有効回答率 53.7%

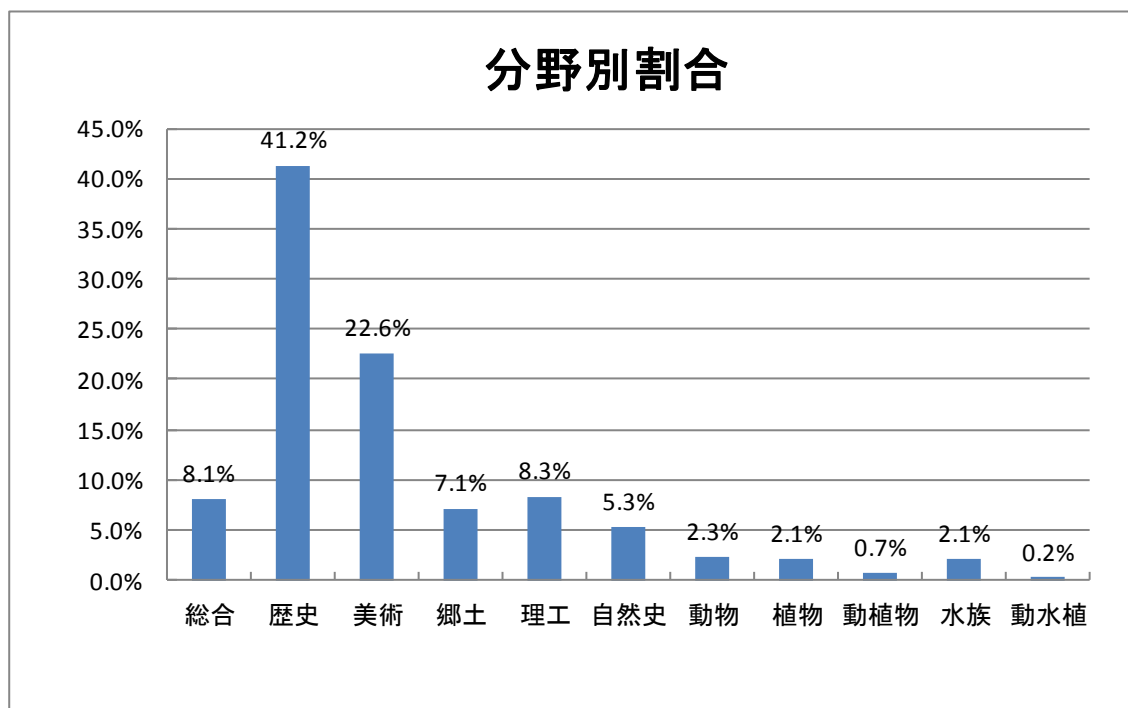
< 解答施設の館種別割合について >

【登録・相当の割合】



登録施設が全体の約 4 割であり、相当施設が約 1 割となっている。登録施設と相当施設を合わせると全体の約半数を占めている。1 次調査の結果とほぼ同じであるが、登録施設の割合が若干増えている。

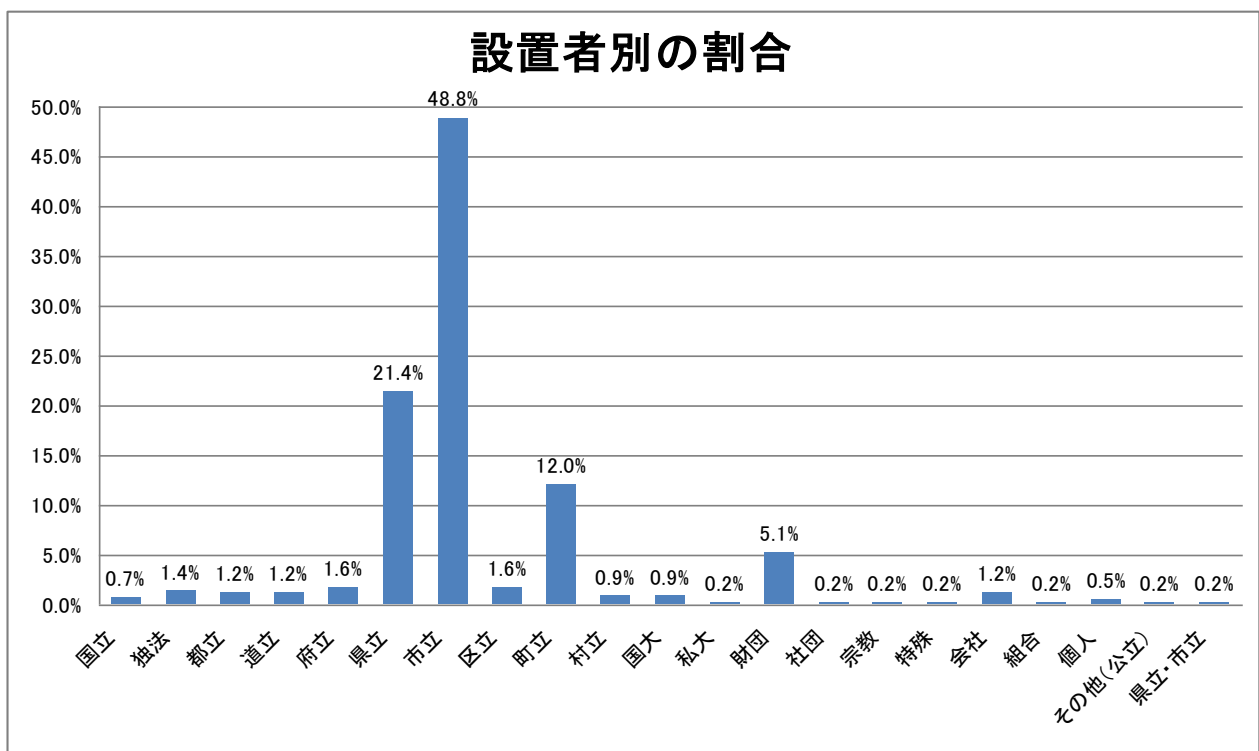
【分野別の割合】



総合	35	8.1%
歴史	179	41.2%
美術	98	22.6%
郷土	31	7.1%
理工	36	8.3%
自然史	23	5.3%
動物	10	2.3%
植物	9	2.1%
動植物	3	0.7%
水族	9	2.1%
動水植	1	0.2%
合計	434	100.0%

分野別の割合については、歴史が全体の4割を占め、美術が2割となっている。次いで、理工、総合、郷土、自然史の順になっている。歴史と美術を合わせて全体の6割強となっている。歴史と美術については、1次調査の結果とほぼ同じである。3位以降は順序が微妙に変化している。

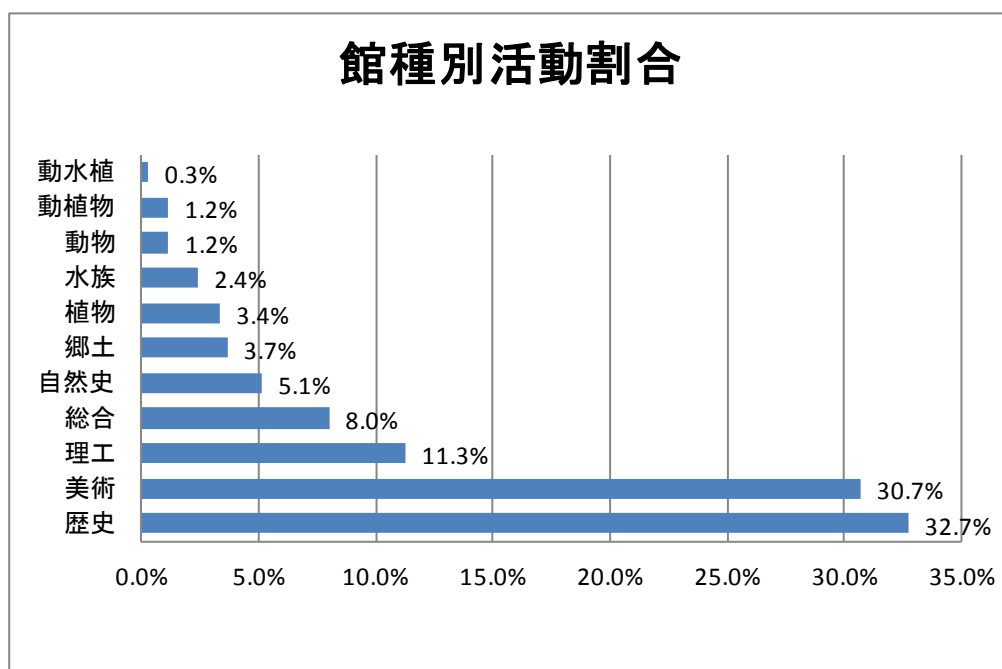
【設置者別の割合】



国立	3	0.7%
独法	6	1.4%
都立	5	1.2%
道立	5	1.2%
府立	7	1.6%
県立	93	21.4%
市立	212	48.8%
区立	7	1.6%
町立	52	12.0%
村立	4	0.9%
国大	4	0.9%
私大	1	0.2%
財団	22	5.1%
社団	1	0.2%
宗教	1	0.2%
特殊	1	0.2%
会社	5	1.2%
組合	1	0.2%
個人	2	0.5%
その他 (公立)	1	0.2%
県立・市立	1	0.2%
合計	434	100.0%

設置者で見ると、市立が全体の約半数を占め、次いで県立（約 2 割）、町立（約 1 割強）、財団の順になっている。1 次調査の結果よりも市立の割合が高くなり、町立と県立の順序が逆になっている。

<活動総数、および分野別人数の割合について>



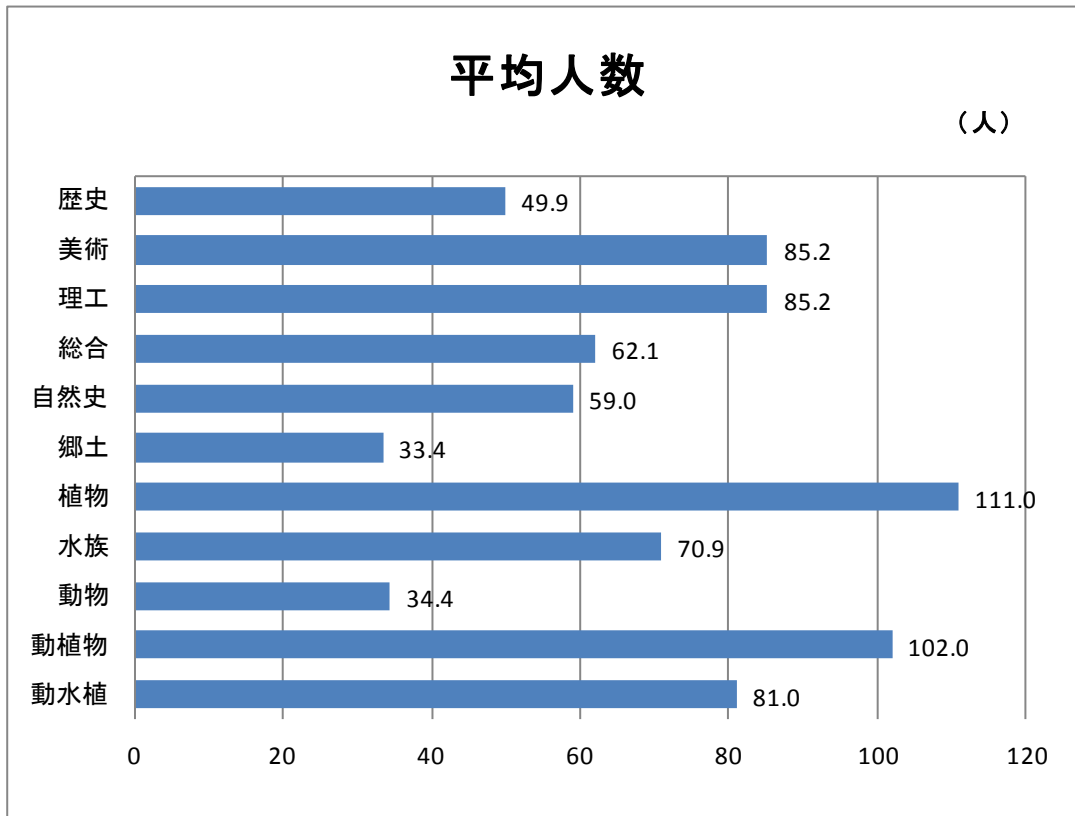
館種	活動人数(合計)	割合
歴史	8632	33%
美術	8093	31%
理工	2982	11%
総合	2110	8%
自然史	1357	5%
郷土	970	4%
植物	888	3%
水族	638	2%
動物	310	1%
動植物	306	1%
動水植	81	0%
総計	26367	100%

今回解答が得られた 434 施設のボランティア等の活動を行う総人数は 26,367 人で、その内訳が歴史と美術がそれぞれ約 3 割となっている。この歴史と美術を合わせると全体の約 6 割となっている。次いで、理工と総合がそれぞれ 1 割強と 1 割弱となっており、その他は 5%以下となっている。

なお、ボランティア活動人数に対して、施設職員の総数は 434 施設の総計が 6,725 人となっている。したがって、ボランティア活動人数は職員の約 4 倍となっている。

また、1 施設でもっとも人数が多いのは、日本科学未来館（819 人）であり、次いでM O A美術館・箱根美術館（各 671 人）、浦添市美術館（650 人）、横浜市こども植物園（600 人）の順となっている。加えて、1 施設において 100 名を超える活動人数がいる施設は全体で 48 施設存在し、全体の約 1 割強を占めている。

<平均活動人数、および分野別平均活動人数について>



館種	活動人数(合計)	館数(合計)	平均人数
歴史	8632	173	49.9
美術	8093	95	85.2
理工	2982	35	85.2
総合	2110	34	62.1
自然史	1357	23	59
郷土	970	29	33.4
植物	888	8	111
水族	638	9	70.9
動物	310	9	34.4
動植物	306	3	102
動水植	81	1	81
総計	26367	419	62.9

1館当たりの平均活動人数は、62.9人となっている。なお、施設の総数が419施設になっているのは、人数覧を無記入にしているところが15施設あるからである。

分類の仕方も関係するが、総じて動物・植物・水族など、生き物を扱う施設は、先の導入の割合は低いが、1施設あたりの活動人数が比較的多いことが伺える。

また、美術と理工の参加者も比較的多く、逆に歴史、総合、郷土、自然史が比較的に少なくなっている。

<男女比について>

男性の総数は 8,707 人であり、女性の総数は 12,698 人である。全体としては大凡男性 4 割に対して女性が 6 割となっている。

(※男女の合計が総活動数の 26,367 人にならないのは、男女の内訳を記入していない施設があるからである)

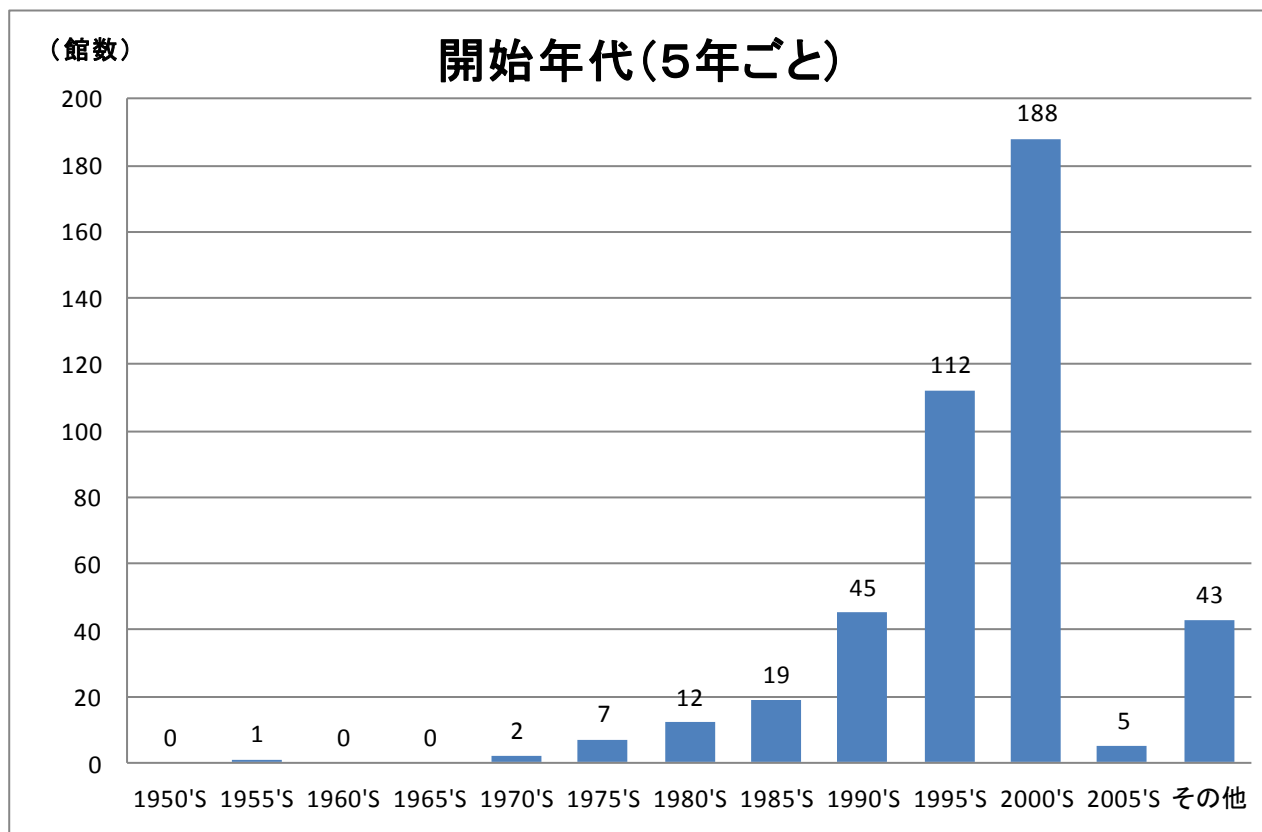
<平均年齢について>

男女それぞれの平均年齢は、男性が 58.89 歳であるのに対して、女性が 51.25 歳となっている。男女ともに総じて 50 歳以上と年齢が高く、男性は女性よりも 7 歳以上高いことが伺える。

<活動を支える職員について>

活動を支える職員（常勤）の総数は 582 人である。1 施設あたりの平均は 1.65 人となっている。また、その中でも明確に「コーディネーター」と称する役職があるのは、全体で 2 施設であり、多くは普及部局が担っている。

<活動の開始状況について（5 年ごとの推移）>



1950'S	0	0%
1955'S	1	0%
1960'S	0	0%
1965'S	0	0%
1970'S	2	0%
1975'S	7	2%
1980'S	12	3%
1985'S	19	4%
1990'S	45	10%
1995'S	112	26%
2000'S	188	43%
2005'S	5	1%
その他	43	10%
総計	434	100%

日本でいつからミュージムボランティアが開始されたのかを知る明確な文献はないが、今調査で知り得た最も古い活動としては、1958年に帯広市児童会館青少年科学館（北海道）で開始された「野草園の運営活動」がある。次いで、1973年に金城町民俗資料館（島根県）の「資料館管理活動」が、そして1974年の北九州市美術館（福岡県）の「展示解説・鑑賞企画等の活動」がある。

上記の表は5年ごとの活動発生の推移をまとめたものである。年々増えてきてはいるが、1990年代後半からその伸び率が増加していることが理解できる。なお、2005年以降のものは調査年の関係からデータそのものが少ないので、ここでは表右の「2005'S」と「その他」はあまり有効な情報ではないが、表には記載をしておいたことを付け加えておく。

<その他>

その他、基礎データからは興味深い情報を読みとることができるが、情報量が多いのでその他の詳細およびその論考については、今後論文等で紹介していくこととしたい。

4. 各館別基礎データ

<凡例>

- ・ 次頁以降は 434 施設全てのアンケートデータ（原票）を掲載している。
- ・ 順序は①都道府県（県コード）、②施設名五十音となっている。
- ・ データは調査時点のものである（アンケート記入情報のまま）。
- ・ 最初に「施設概要」があり、次いで「ボランティア活動概況」があり、最後に「個別活動シート」がある。
- ・ 個別活動シートは施設の活動内容に応じた数がある。施設によっては個別活動シートが記入されていなかったところがある。

〈北海道〉

足寄動物化石博物館
えりも町郷土資料館・水産の館
小樽交通記念館
帯広市児童会館 青年科学館
帯広百年記念館
木田金次郎美術館
黒松内町ブナセンター
札幌芸術の森野外美術館
札幌市青少年科学館
札幌市豊平川さけ科学館
財団法人札幌彫刻美術館
史跡北黄金貝塚情報センター
砂川市郷土資料室
仙台藩白老元陣屋資料館
伊達市開拓記念館
函館文学館
富良野市博物館
北海道開拓の村
北海道大学総合博物館
北海道市帯広美術館
北海道立近代美術館
北海道立函館美術館
北海道立三岸好太郎美術館
穂別町立博物館
本別町歴史民俗資料館
三浦綾子記念文学館
紋別市立博物館
余市水産博物館

〈青森県〉

青森県立郷土館
青森県立三沢航空科学館
青森市歴史民俗展示館「稽古館」
馬の文化資料館 十和田市称徳館
佐井村海峡ミュージアム
七戸町立鷹山宇一記念美術館
八戸市縄文学習館
八戸市博物館
八戸市美術館

〈岩手県〉

芦東山先生記念館
岩手町石神の丘美術館
大船渡市立博物館
釜石市立鉄の歴史館
北上市立博物館
御所野縄文博物館
萬鉄五郎記念美術館

〈宮城県〉

仙台市科学館
仙台市天文台

仙台市富沢遺跡保存館(地底の森ミュージアム)
仙台市博物館
仙台市歴史民俗資料館
仙台藩祖伊達政宗公霊屋瑞鳳殿
東北歴史博物館
迫町歴史博物館
丸森町蔵の郷土館 齋理屋敷

〈秋田県〉

秋田県立近代美術館
秋田県立博物館
秋田市民俗芸能伝承館
秋田城跡出土品収蔵庫
秋田市立佐竹史料館
秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館
大瀧村干拓博物館
亀田城佐藤八十八美術館
後三年の役金沢資料館
払田柵総合案内所
矢島町郷土文化保存伝習施設 矢島町郷土資料館

〈山形県〉

いでは文化記念館
上山市立上山城
財団法人致道博物館
鶴岡市立加茂水族館
天童市美術館
西川町立大井沢自然博物館
まほろば・童話の里 浜田広介記念館
山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
山形市野草園

〈福島県〉

いわき市暮らしの伝承郷(くらしのでんしょうごう)
いわき市立草野心平記念文学館
喜多方蔵の里
郡山市開成館
郡山市ふれあい科学館スペースパーク
ふくしま海洋科学館(アクアマリンふくしま)
福島県文化財センター白河館(まほろん)
福島市民家園
三春町歴史民俗資料館

〈茨城県〉

茨城県近代美術館つくば分館(茨城県つくば美術館)
上高津貝塚ふるさと歴史の広場
玉里村立史料館
地図と測量の科学館
土浦市立博物館
常陸大宮市歴史民俗資料館
真壁町歴史民俗資料館
水戸芸術館現代美術センター
ミュージアムパーク茨城県自然博物館

龍ヶ崎市歴史民俗資料館

〈栃木県〉

足利市立美術館
宇都宮美術館
小山市立博物館
鹿沼市立川上澄生美術館
葛生町立吉澤記念美術館
佐野市郷土博物館
栃木県子ども総合科学館
栃木県立美術館
那須塩原市那須野が原博物館
馬頭町広重美術館
矢板武記念館

〈群馬県〉

群馬県生涯学習センター少年科学館
群馬県立近代美術館
群馬県立自然史博物館
群馬県立館林美術館
群馬県立土屋文明記念文学館
群馬県立歴史博物館
高崎市歴史民俗資料館
館林市立資料館
中之条町歴史民俗資料館
水と緑と詩のまち前橋文学館
向井千秋記念子ども科学館

〈埼玉県〉

入間市博物館 ALIT(アリット)
川越市立博物館
行田市郷土博物館
さいたま川の博物館
埼玉県こども動物自然公園
埼玉県立近代美術館
埼玉県立自然史博物館
埼玉県立博物館
埼玉県立民俗文化センター
埼玉県立歴史資料館
さいたま市立博物館
さいたま文学館
狭山市博物館
所沢航空発祥記念館
飯能市郷土館
富士見市立難波田城資料館
富士見市立水子貝塚資料館
毛茂呂山町歴史民俗資料館
八潮市立資料館

〈千葉県〉

浦安市郷土博物館
鎌ヶ谷市郷土資料館

旧堀田邸
人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館
袖ヶ浦市郷土博物館
館山市立博物館
千葉県立安房博物館
千葉県立上総博物館
千葉県立美術館
千葉県立房総のむら
睦沢町立歴史民俗資料館
八千代市文化伝承館

〈東京都〉

足立区立郷土博物館
青梅市郷土博物館
大島町貝類博物館「ばれ・らめーる」
葛飾区郷土と天文の博物館
財団法人 紙の博物館
切手の博物館
清瀬市郷土博物館
くにたち郷土文化館
交通博物館
国立西洋美術館
サイエンスドーム八王子(八王子市子ども科学館)
すみだ郷土文化資料館
世田谷美術館
台東区立下町風俗資料館
多摩六都科学館
東京国立博物館
東京大学総合研究博物館
東京都井の頭自然文化園
東京都江戸東京博物館
東京都江戸東京博物館分館東京たてもの園
東京都美術館
東京農工大学工学部附属繊維博物館
独立行政法人国立科学博物館
独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館
都立第五福竜丸展示館
日本科学未来館
羽村市郷土博物館
日野市ふるさと博物館
文京ふるさと歴史館
町田市立国際版画美術館
目黒区美術館

〈神奈川県〉

厚木市郷土資料館
神奈川県立神奈川近代文学館
神奈川県立金沢文庫
神奈川県立生命の星・地球博物館
神奈川県立地球市民かなざわプラザ
神奈川県立フラワーセンター大船植物園
神奈川県立歴史博物館
川崎市市民ミュージアム

川崎市青少年科学館
川崎市立日本民家園
三溪園
シルク博物館
地名資料室
日本新聞博物館
箱根美術館
平塚市博物館
横浜市こども植物園
横浜市立よこはま動物園(ズーラシア)
横浜市歴史博物館
財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー 横浜人形の家
横浜マリタイムミュージアム

〈新潟県〉

塩沢町立今泉博物館
上越市立水族博物館
しろね大凧と歴史の館
財団法人痴娯の家
伝承の里 綾子舞会館
トミオカホワイト美術館
新潟県立自然科学館
新潟県立歴史博物館
新潟市美術館

〈富山県〉

大島町絵本館
高岡市万葉歴史館
富山県水墨美術館
富山県[立山博物館]
富山県中央植物園
富山県埋蔵文化財センター
富山県立近代美術館
富山市科学文化センター
滑川市立博物館
氷見市海浜植物園

〈石川県〉

石川県九谷焼美術館
石川県七尾美術館
石川県西田幾太郎記念哲学館
石川県白山自然保護センター 中宮展示館
泉鏡花記念館
金沢蓄音器館
北前船の里資料館
小松市立宮本三郎美術館

〈福井県〉

福井市自然史博物館

〈山梨県〉

なかとみ現代工芸美術館
山梨県立科学館

山梨県立考古博物館
山梨県立美術館

〈長野県〉

市立大町山岳博物館
上田市立信濃国分寺資料館
上田市立博物館
軽井沢絵本の森美術館
木曾郷土館
駒ヶ根シルクミュージアム
塩尻市立平出博物館
信州高遠美術館
諏訪市博物館
千曲市さらしなの里歴史資料館
千曲市森將軍塚古墳館
茅野市尖石縄文考古館
長野県立歴史館
日本童画美術館(イルフ童画館)
松本市博物館 日本民俗資料館
椋鳩十記念館・記念図書館

〈岐阜県〉

大垣市 金生山化石館
かかみがはら航空宇宙博物館
岐阜県現代陶芸美術館
岐阜県博物館
岐阜市科学館
岐阜市歴史博物館
サイエンスワールド(岐阜県先端技術体験センター)
高山陣屋
中津川市鉱物博物館
飛騨古川まつり会館
瑞浪市化石博物館
美濃加茂市民ミュージアム

〈静岡県〉

新居関所史料館
磐田市旧見付学校
MOA 美術館
静岡アートギャラリー
静岡県立美術館
静岡市立登呂博物館
静岡市立日本平動物園
東海大学海洋科学博物館
東海道広重美術館
浜松科学館
浜松楽器博物館
浜松市動物園
浜松市博物館
浜松市美術館
藤枝市郷土博物館
富士市立博物館
細江町立姫街道歴史民俗資料館

焼津市歴史民俗資料館

〈愛知県〉

三州足助屋敷
高浜氏やきものの里かわら美術館
田原町博物館
知多市歴史民俗博物館
東海市立平洲記念館・郷土資料館
常滑市民俗資料館
豊橋市自然史博物館
豊橋市美術博物館
名古屋港水族館
名古屋市科学館
名古屋市東山動植物園
名古屋市美術館
野外民族博物館リトルワールド

〈三重県〉

愛洲の館
伊賀越資料館
三重県立美術館
四日市市立博物館

〈滋賀県〉

滋賀県立近代美術館
滋賀県立陶芸の森陶芸館
滋賀県立琵琶湖博物館
滋賀県立琵琶湖文化館
多賀の自然と文化の館
能登川町立博物館
MIHO - MUSEUM

〈京都府〉

亀岡市文化資料館
京都芸術センター
京都国立近代美術館
京都国立博物館
京都市青少年科学センター
京都市美術館
京都府京都文化博物館
京都府立堂本印象美術館
京都府立山城郷土資料館(愛称：ふるさとミュージアム山城)
京都の田舎民具資料館
泉屋博古館
京エコロジーセンター
向日市文化資料館

〈大阪府〉

泉佐野市立歴史館いずみさの
大阪・海遊館
大阪市天王寺動物園
大阪市立住まいのミュージアム
大阪市立東洋陶磁美術館

大阪府営箕面公園昆虫館
大阪府立狭山池博物館
大阪府立上方演芸資料館(ワッハ上方)
大阪府立現代美術センター
大阪府立近つ飛鳥博物館
大阪歴史博物館
国立民族学博物館
サイクルセンター自転車博物館
財団法人大阪市教育振興社キッズプラザ大阪
なにわの海の時空館

〈兵庫県〉

伊丹市昆虫館
伊丹市立博物館
伊丹市立美術館
小野市立好古館
神戸市埋蔵文化財センター
神戸市立須磨海浜水族園
神戸市立青少年科学館
篠山チルドレンズミュージアム
龍野市立歴史文化資料館
丹波柏原市立原歴史民俗資料館
にしわき経緯度地球科学館
白鹿記念酒造博物館
播磨町郷土資料館
姫路市立美術館
姫路文学館
兵庫県立フラワーセンター
兵庫県立歴史博物館
福崎町立神崎郡歴史民俗資料館
北淡町震災記念公園 野尻断層保存館
南あわじ市立滝川記念美術館玉青館

〈奈良県〉

葛城市相撲館「けはや座」
財団法人 水平社博物館
奈良県立橿原考古学研究所附属博物館
奈良県立美術館
奈良県立万葉文化館

〈和歌山県〉

和歌山県立自然博物館
和歌山県立博物館

〈鳥取県〉

県立童謡館・鳥取世界おもちゃ館(わらべ館)
鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館
氷ノ山自然ふれあい館

〈島根県〉

出雲科学館
金城町民俗資料館
島根県立三瓶自然館

島根県立しまね海洋館

〈岡山県〉

株式会社 池田動物園
井原市立田中美術館
岡山県立美術館
岡山市半田山植物園
岡山市立オリエント美術館
かもがた町家公園
倉敷市立美術館
倉敷民藝館
新見美術館
政田民俗資料館

〈広島県〉

広島県立美術館
広島県立歴史博物館
広島県立歴史民俗資料館
広島市交通科学館
広島市こども文化科学館
広島市植物公園
広島平和記念資料館
ふくやま美術館

〈山口県〉

下関市立考古博物館
周南市徳山動物園
田布施町郷土館
山口県立美術館

〈徳島県〉

相生森林美術館
あすたむらんど徳島 こども科学館
大塚国際美術館
徳島県立近代美術館
徳島市立徳島城博物館
鳴門市賀川豊彦所記念館

〈香川県〉

香川県文化会館
瀬戸内海歴史民俗資料館
高松市美術館
高松市歴史資料館
平賀源内先生遺品館

〈愛媛県〉

宇和町先哲記念会館
愛媛県美術館
松山市立子規記念博物館
湯築城資料館

〈高知県〉

高知県立のいち動物公園

高知県立文学館
高知県立牧野植物園
高知県立歴史民俗資料館

〈福岡県〉

大牟田市石炭産業科学館
北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館)
北九州市立児童文化科学館
北九州市立長崎街道木屋瀬宿記念館　みちの郷土資料館
北九州市立美術館
九州歴史資料館
田川市石炭資料館
大宰府展示館
福岡アジア美術館
福岡県青少年科学館
福岡市美術館

〈佐賀県〉

佐賀県立九州陶磁文化館

〈長崎県〉

西海パールシーセンター
佐世保市亜熱帯動植物園
長崎ペンギン水族館

〈熊本県〉

熊本県環境センター
熊本県立美術館
熊本市現代美術館
熊本市動植物園
熊本市立熊本博物館
東陽村石匠館

〈大分県〉

大分市美術館

〈宮崎県〉

延岡市市民会館　内藤記念館
宮崎県立西都原考古博物館
みやざき歴史文化館

〈鹿児島県〉

かごしま近代文学館・かごしまメルヘン館(複合施設)
鹿児島県上野原縄文の森
鹿児島市平川動物公園
吹上町歴史民俗資料館

〈沖縄県〉

浦添市美術館
沖縄県立博物館
那覇市立壺屋焼物博物館